



浄土真宗・お東

真宗大谷派 どうじょうじ
No.84 道誠寺報

2026年2月18日発行



画／百田 稔

じこう
慈光はるかにかぶらしめ ひかりのいたるところには
ほうき だいあん に きみょう
法喜をうとぞのべたまう 大安慰を帰命せよ

親鸞聖人『浄土和讃』

2026

道誠寺 主要行事日程表

春

春季彼岸会法要 (春のお彼岸)

3月19日(木)14時～
子ども 花まつり

4月5日(日)15時～



おみかき会

7月9日(木)14時～

盂蘭盆会法要 (夏のお盆)

8月15日(土)15時～



夏

秋

秋季彼岸会法要 (秋のお彼岸)

9月24日(木)14時～

報恩講 (親鸞聖人のご法要)

11月12日(木)14時～



春秋彼岸・盂蘭盆会について

お寺の本堂では、参詣された皆さまと法要をご一緒にお勤めしています。

参詣予定の方は、事前申し込みをお願いします。

ご参詣のご都合がつかず、御布施を現金書留や銀行振込みにてお送りくださる方は、亡き故人さまの法名、俗名をお知らせください。

他銀行からの場合

ゆうちょ銀行 宗教法人 道誠寺

店名 ○五八 ゼロゴハチ

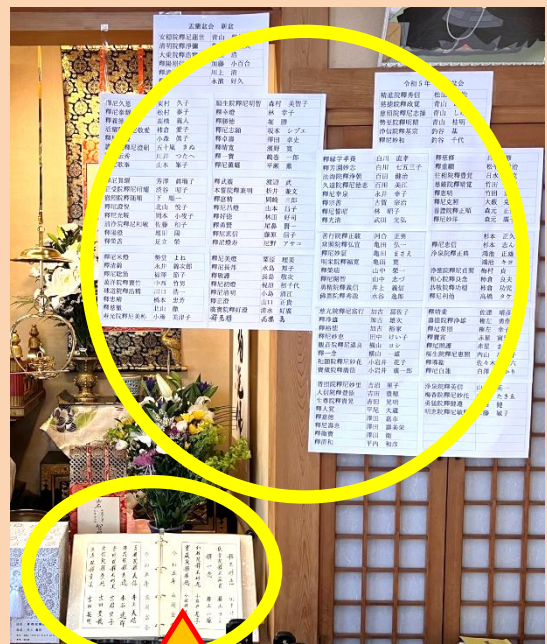
普通預金 5129219

同じゆうちょ銀行からの場合

記号 10540-2

普通預金 51292191

ご自宅や本堂での戸別の参勤も承っていますので、ご依頼ください。



俗名	法名	俗名	法名
<input type="checkbox"/>	釋尼	○	釋
<input type="checkbox"/>	○	○	○
<input type="checkbox"/>	□	○	○
<input type="checkbox"/>	□	○	○



月	日時	行事名	開催場所
3月	13日(金)13時30分	門徒会春季法話会	柏市淨眞寺
	24日(火)13時30分	親鸞教室	松戸市西蓮寺
4月	23日(木)14時	同朋会(法話会)	道誠寺
5月	28日(木)14時	同朋会	道誠寺
6月	1日(月)13時30分	親鸞教室	松戸市西蓮寺
	25日(木)14時	同朋会	道誠寺
7月	23日(木)14時	同朋会	道誠寺

上記行事の日程は変更の場合もありますので、ホームページをご確認、あるいはお寺へお問い合わせください。(047-337-5305)

11月18日 報恩講 円成

行事報告



親鸞聖人が出遇われた本願
念仏の教えを聴聞します。

法話「求めていない未知なる救い」(一部抜粋)
百々海 真師 (釋真了・東京都港区了善寺住職)

ようこそお参りくださいました。今日は「求めていない未知なる救い」という題を掲げさせていただきます。申すまでもなく、報恩講は親鸞聖人のご法要ですから、親鸞聖人が歩まれた本願念仏の仏道とはいかなることかをお互いに確かめさせていただく場があります。

「報恩講」と聞くと、「恩」という字の印象から、「感謝の集い」と勘違いする方もおられますが、そうではありません。「感謝」といっても、私たちは自分の都合に合うことしか感謝できませんし、単に有り難い気持ちに浸ることもありません。教えに遇うとは、私たちが立場とする自分の都合というモノサシが問い返されること、分別、決めつけからの一瞬の解放なのですね。

「求めていない未知なる救い」という題は、親鸞聖人の『一念多念文意』というお聖教に三回出てくる言葉を基としています。ほぼ同じ意味の言葉が三回出てまいります。それは「もとめず、しらするに」(聖典〇五三七頁・〇六五七頁)という言葉です。あるいは「しらす、もとめざるに」とか、表現には若干の違いがあるものの、本願が与える利益、救いとは、私たちにとっては想定外、「求

めていない未知なる救い」というのです。

もとめざるに無上の功德をえしめ、しらざるに広大の利益^{やく}をうるなり(聖典○五三九頁・○六六〇頁)

求めていない「無上の功德」、未知なる「広大の利益」が仏によって与えられるのです。

本願の救いとは、私が思い描く延長線上にあるのではなくて、私が知らない、つまり私の要求にこたえる救いではないのだと。我々にとっては想定外の出遇い、未知との遭遇なのです。「こういう世界があったのだ」という発見の喜びが与えられ、そして、その世界に出遇い続けていきたいとの志願を生涯賜り続ける救いなのだと、申し上げてよろしいかと思うのですね。救われて終わるのでなく、救いとはいっても始まりを開くのです。

ご承知の方もおられると思いますが、市野住職もご縁があり、私も長年お育てにあずかった池田勇諦^{ゆうたい}先生が今年(二〇二五年)の六月二十九日にお浄土に帰られました。満九十歳十か月余りのご生涯でした。仏法を自他共に共有するために世に現れてくださった方でありました。

私が池田先生に聞いていこうと思ひ立ったのは、二〇〇五年十一月二十六日、本山の「親鸞聖人讃仰講演会^{さんごう}」で暁烏敏^{あけがらすはや}先生の教えをお説きくださったことがきっかけでした。その翌年に三重県桑名市の池田先生のご自坊、西恩寺様の「同朋

講座」(隔月開催の定例法話会)にお参りしました。当時は百五十人から二百人ほどの大勢のお参りがあり、午後三時に終わった後で座談を兼ねた懇親会が開かれていました。私もその席に着き、ビールをいただき、一口カツとあんかけ豆腐など、御馳走を頂戴していました。

始まって三十分余りが過ぎた頃、総代さんから「初めてお参りされた人から一言ずつ言葉をもらいます」と言われて、マイクが回ってきました。簡単な自己紹介と、「暁烏先生の教えを説きあかしてくださいましたことから参詣した」と申し、座った時、向かいに座っておられる池田先生から問われました。

「百々海君。あなたにとって仏法とは何か」。

不意打ちの質問は、響きます。ビールの酔いも一瞬さめて、思わず座りなおした直球の問いかけでした。今ならば違う言葉が湧いてきますが、その時は「勘違いを勘違いと知らせるはたらき」と申しました。池田先生からは何のコメントもなく、小さく頷かれただけで、次の人にマイクが回されました。ただこれだけの出来事が私にはずっと刺さっています。

「あなたにとって仏法とは何か」という問いこそが仏道の核心でしょう。「あなたにとって」とは「現在只今の私においては」ということです。もちろん「念仏成仏これ真宗」とか、「本願を信じ、念仏をもうさば仏になる」とか、教えの言葉をそのまま言ってもいいでしょう。ですが、親鸞聖人のお

言葉を持ち出す必要はありませんし、教えの定義を説明するのではなく、求められているのは表白、いわば信仰告白です。

「あんたにとって仏法とは何か」、これは私に向かつて発せられた一言です。けれども、報恩講はお互いにこの問いの前に立たしめられる、年に一度のご勝縁でしょう。それこそが「**真実に聖人の御意にあいかなうべし**」(『御文』三帖目第九通・聖典〇八〇七頁・〇九七二頁)、親鸞聖人のお心になうことなのでしょう。「感謝の集い」どころではないですね。

この問いこそ、法然上人も、親鸞聖人も直面した問いであり、「浄土こそ真の宗である」と叫ばれたのでしょうか。私にとって仏法聴聞とは何か。寺参りとは一体何なのか。このことひとつを明らかにする。このことは、お寺の中だけでの言葉のやり取りでなく、「あんたは何のためにこの世に生まれてきたか」という問いに育つ内容を孕んでいます。そのことを一つ申し上げておきます。

今日お話ししようと思っておりますのは、浄土三部経のひとつ、『**観無量寿経**』が語る王舎城の悲劇、王宮内での一人の女性、「**韋提希夫人**」という王妃の深い絶望とその蘇生のプロセスについてです。ですが、本題に入る前に「**經典**」、「**お経**」について少々考えたいと思います。

皆さんは、NHKの「チコちゃんに叱られる!」という番組をご存知でしょうか？ 頷かれていますから、チコちゃんは国民的アイドルですね。あの番組は視聴率も高く、人気番組ですが、番組の企画制作を担当したプロデューサーは小松純也氏、フジテレビの「笑っていいとも!」なども手掛けた名プロデューサーです。フジテレビを退社してからNHKの番組制作にも関わり、番組編成

会議の中で、五歳の女の子を主人公として、大人が当たり前だに思っていること、固定観念で決めつけていること、そのことが本当に確かかどうかを吟味し、ひっくり返す番組を企画提案されたのです。

我々が立場とする自我の分別心はいわば決めつけです。それが真実かどうかは一度も吟味することなく、また自分のモノサシでは自分のモノサシ自体は測れませんから、例えば、「幸せな人生、成功者の一生とは、こういうことだ」と決めつけて、それに合致すればヨシ、合致しなければダメと評価し比べて生きているのです。「人生なんて、こんなもんだ」とか、「もう先が見えたな」とか、色々な決めつけを抱えて生きている。

「チコちゃんに叱られる!」は、世の常識、決めつけを、五歳の女の子が「ボーっと生きてんじゃねーよ!」と、一喝する番組です。よく考えてみると、過激な内容ですね。世の大人たちをバツサリ斬るのですからね。ですから、



番組編成会議でも「この企画を番組にしたら大炎上するのではないか」という話にもなったらしいのですよ。番組の構成は、子どもによって大人がやつつけられる内容ですからね。

要は、まったく見えていなかった、もともとそうだった、という気づきでしょう。その痛快さや爽快感が多く視聴者に受けているということは生活刷新の喜びでもあるのですね。番組で取り上げるのは、知識的なレベルですけども、長年そう思い込んできたという闇が破られる喜びです。ソクラテスの「無知の知」にも通じます。

小松純也氏は、フジテレビの「笑っていいとも!」の中で、「君たちは漫然と生きていないか?」というコーナーを企画した経歴があるのですね。タモリが司会を務めていた長寿番組ですが、昼間のバラエティー番組としては、「君たちは漫然と生きていないか?」というコーナーはシリアスです。私はそれがどんな内容かは知りませんが、「漫然と」ということは「ボーっと」ですから、チコちゃんにつながります。小松氏の感性が鋭いのでしょうか、ひょっとすると小松氏は真宗門徒ではないかなと、我田引水で思っている次第です。

一般論でなく、「百々海くん、あんたは漫然と生きていないか」という一言として届けば、「後が有る」「いつかそのうちに」という有後心^{うごしん}に立つ私を貫く如來^{らいめい}の天命です。

今から三年ほど前のことですが、たまたまテレビをつけた

らNHKで「チコちゃんに叱られる!」が放映中でした。その時にチコちゃんが発した問いは「お経ってなに?」でした。皆さん、どう応答されますか。お経って何ですか。チコちゃんにどのように応答されますか。しばらくお考えになってください。

考えてみると、このようなストレートな質問は、なかなか耳にしません。仏教の基本の基本です。今日お家に帰って、娘さんや息子さん、あるいは友だちから、「今日もお寺の行事に行ってきたんでしょう。お経って何なの?」と訊ねられたら、ご自分からどんな言葉が飛び出すでしょうか。

番組ではもちろん台本に書かれているのですが、MCのナインティナインの岡村隆史さんはこう答えました。「えーと、えーと:」としばらく考えて、「お経はお葬式とか法事で聞くよね。お経は、天国にいるご先祖に、僕たちはおかげさまで健康に暮らしていますという長い挨拶みたいなもの!」と言い切られたのです。

岡村さんが言ったことは、むしろ一般的な受けとめであり、世間常識に合致しているかもしれませんね。例えば「今日はお婆ちゃんの七回忌でお経があがって、お婆ちゃんもさぞ喜んでいいることと思います。やはり先祖に感謝することは大事ですね」と。感謝は善いことですし、「おかげさまで健康に暮らしています」という心情は誰もが共感されるでしょ

う。だけど、善いことだから勘違いに気づけないのですね。

後ほど学ばせていただく『観無量寿経』に説かれているのは、インドのある王室で起こった王位継承に伴う父親殺しです。息子の阿闍世王子^{あじやせ}によって連れ合いの夫、頻婆沙羅王^{びんばしやら}が殺害され、自らも王宮内に幽閉された韋提希夫人が蘇生するプロセス、本願の教えが人間の上にどのようなにはたらくか、という教説です。親殺しの罪悪感に苦しむ王子阿闍世の救済は『涅槃経』^{ねはんぎょう}に説かれており、后韋提希夫人の救済は『観無量寿経』に説かれています。ですから経典の内容を確かめたら、故人にお聞かせするなんて、とんでもないことですね。

しかし先祖に感謝という視点に立つ限り、そこで完結してしまつて、「お経とは何か」と確かめたこともないとしたら、本末転倒ですね。思い込みの怖さです。もちろん亡き方を憶うことがなければ、法事になりませんが、先人の生涯を、悪戦苦闘を教えとして受けとめ直す眼がお参りしている私たちに開かれるかどうかです。

「お経ってなに？」に対する、岡村さんの「先祖に向かつての長い感謝の挨拶みたいなもの」という答えに対して、チコちゃんは「ボーっと生きてんじゃねーよ!」と一喝しました。



お経とは、故人に聞かせる感謝の言葉ではないでしょう。このあたり、ほんとうに大事な一点です。

番組では、その後大学の仏教学の先生方が「お経は釈尊の説法の聞き書きである」と解説されました。お釈迦さまは、人間の苦悩の根本を指し示す「法」、法則を説いたのです。仏教は法を尊ぶのです。法はインドの言葉では「ダルマ」というそうですが、存在の法則、道理です。真実の道理を真理といいます。法則への目覚めを救いとするのが仏教です。なぜ苦しいのか、苦悩の根本原因を道理によってあきらかにしているのです。

法則の一例として、「重力の法則」と名づけられた法則は、今ここにはたらいっているでしょ。重力の中にいますよね。ここでポカンとされたら、話が進みませんよ(笑)重力がはたらいていなかったら、お互いに座ったり立ったりできないですよ。ホワイボードも宙に浮いてしまいますし、お寺まで歩いて来ることも不可能です。

ですから、「重力の法則」を知らなくても、すでに重力の法則のもとにあるのです。重力そのものは、色も形もないけれども、地球上のすべての色かたちあるものにはたらいています。ニュートンが発見する前から、りんごは落ちていたのです。同様にお釈迦さまが発見する以前から、一切の上にはたらいっている、宇宙を一貫している道理、それが縁起^{えんぎ}の法です。そして苦悩の根本原因を「真理を知らない」という根源的な無知^{むみょう}、「無明」にあると説いたのです。

親鸞聖人のご和讃に「無明の闇を破するゆえ 智慧光仏と

なづけたり」(聖典〇四七九頁・〇五七一頁)とあります。あるいは

「無明の大夜をあわれみて」(聖典〇四八六頁・〇五八四頁)とも詠

われています。真理を知らないことさえ知らない闇の中に居るんだぞと呼び覚ますのがお念仏です。真理を知らないことにも無自覚なのです。それこそ、思いがけないアクシデントに見舞われれば、「これも運命だ」とか「いったい俺が何をしたというのか」と、運命論者になったり、責任転嫁するような危なっかしい生き方をしていることさえ、気づいていないのです。すでにそうなっているながら、そのことを見失っていることさえ知らない。

「弥陀成仏のこのかたは いまに十劫をへたまえり」(聖典〇

四七九頁・〇五七〇頁)、一切衆生が救われる本願の大道が開かれ、本願の国土である浄土が建立されてから、ずっと知らずにいた。永遠の迷いが「いま」はじめて見えたというのです。「ボーっと生きてきたなあ」との目覚めです。

ですから「求めていない未知なる救い」とは、出遇って初めて「こういう世界があったんだ」とわかるということです。これは出遇いの喜びです。「自分の思いだけを絶対化して、狭い世界を生きていたなあ」ということを、広大な世界に出遇って初めて知らされるのです。

話をもとにかえしますが、経典はお釈迦さまの説法の聞書

です。お釈迦さまの著作ではありません。お釈迦さまが人々を前に説かれた教えが、感銘を受けた人々によって文字化され、翻訳されて、伝わってきたのです。「これは大事な教えだ。未来の人々に流れ通っていくように」との願いが生み出したのが経典なのです。

大谷大学名誉教授の古田和弘先生から伺ったことですけれども、釈尊が生きたのは紀元前五世紀ごろと言われ、時代的にはソクラテスとも重なるのです。場所は炎天下のインドです。ですから、ご説法をされる時も長時間話されたはずがありません。もちろんエアコンもない時代ですから、お説きになる釈尊も、聞く人々も暑さで倒れてしまったでしょう。ですからお釈迦さまのご説法は五分から十分程度の短時間だったろうと推測されているそうです。録音もメモ書きもできない時代ですから繰り返しが多かった。真理は、本当にシンプルなのです。簡素であり、無駄がないのです。

例えばお釈迦さまが、「生ある者は必ず死に帰す。これは道理である」と説かれたとしたら、聞いた方が、家に帰ってからも、忘れないようにと声に出して自らに刻んだ。そして翌朝にも「あの大事な教えを忘れてはいけない」との一念で、また声に出して教えの言葉を確かめた。それが経典誦誦、読経の原型ではないかと、教えていただいたことがあります。

(以上、一部抜粋)

令和 8 年（2026 年）度の年回忌案内

回忌	命終された年
1 周忌	2025 年(令和 7 年)
3 回忌	2024 年(令和 6 年)
7 回忌	2020 年(令和 2 年)
13 回忌	2014 年(平成 26 年)
17 回忌	2010 年(平成 22 年)
23 回忌	2004 年(平成 16 年)
27 回忌	2000 年(平成 12 年)
33 回忌	1994 年(平成 6 年)
50 回忌	1977 年(昭和 52 年)

○年忌法要(ご法事)について

お寺の本堂、ご自宅のお内仏前、(墓前)でお勤めします。

日程や場所がお決まりになられたら、お寺へご連絡ください。

予約をされた法要日程が近くなりましたら、法要日時や場所など、あらためてお寺までご確認をお願いいたします。

わからないことなどありましたら、お気軽にお問い合わせください。



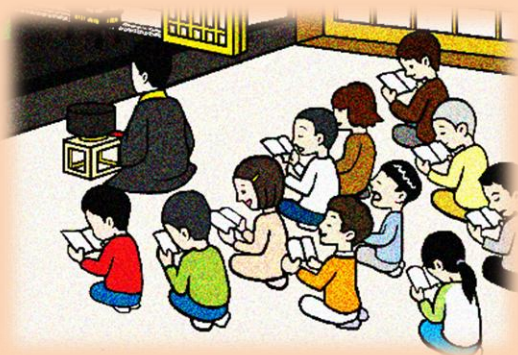
←京都東本願寺の「お彼岸」の小冊子に住職が寄稿しました。

私たちの浄土真宗では、「南無阿弥陀仏」と、声に出してお念仏を申します。

本願念仏は、私の思いや望みを叶えるための呪文ではありません。仏が私を目覚めさんとするよび声、願いが言葉となった南無阿弥陀仏です。

このお念仏の教え、仏法を学びましょう！ 3 ページの日程表を確認のもと、同朋会（法話会）へ、ぜひご参加ください。

14 時から 16 時頃までです。
どうぞおでかけください。



どうじょうじ
真宗大谷派 道誠寺

〒272-0804

千葉県市川市南大野

1-26-31

TEL: 047-337-5305

URL:

<https://dojyoji.com>

メールアドレス

ichikawadojyoji

@gmail.com

住 職 釋光生

副住職 釋潤生

前住職 釋慈敬

